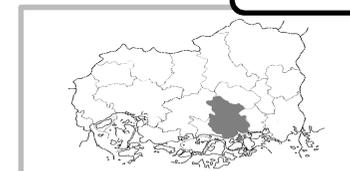


令和元年度 地域公共交通確保維持改善事業 事業評価 三原市公共交通活性化協議会（計画策定事業）の概要



三原市の概要

- ・平成17年3月に1市3町が合併
- ・人口 9万6194人（平成27年度国勢調査）
- ・面積 471.55km²

三原市地域公共交通活性化協議会の構成員

市民・利用者代表、学識経験者、交通事業者及び労組代表者、地方自治体（県・市）、警察、道路管理者、広島運輸支局

地域公共交通の現状

- ・鉄道：JR山陽新幹線、JR山陽本線、JR呉線
- ・航路：三原土生航路、瀬戸田航路、須波沢航路
- ・4条バス路線：芸陽バス、中国バス、鞆鉄道、おのみちバス 45系統数
- ・乗合タクシー：双葉運輸、エフジー、おかの交通 外5社
- ・自家用有償旅客運送（佐木島、久井地域）・高齢化率 32.7%

地域公共交通の現況



具体的な課題・問題点

- ・人口減少，高齢化への対応
- ・まちづくり方針との整合に向けた対応
- ・交通事業者における乗務員不足への対応
- ・新たな関連技術の進展への対応

調査事業の実施

調査事業の概要

- ・現況調査（地理的条件，人口，高齢化）
- ・アンケート調査（市民3,000世帯配付，利用者950件配付，町内会長約500件配付，民生委員約250件配付）
- ・ヒアリング調査（バス事業者，地域住民組織）
- ・現行計画の検証，課題の把握・整理
- ・第2期三原市地域公共交通網形成計画の策定

協議会における検討

- 協議会の開催状況 3回開催
- ・第1回（7月31日）
検討の進め方の確認
 - ・第2回（10月29日）
計画骨子案を協議
 - ・第3回（12月4日）
計画素案協議、事業評価

地域住民の意見の反映

- ・本年度8月に市内3,000世帯を対象に市民アンケートを実施し、1,421世帯の回答を集計（世帯数での回収率47.4%）。
- ・本年度9月に利用者、町内会長、民生委員アンケートを実施し、637件を回収し集計。

事業実施の適切性

- 事業が計画どおり適切に実施された。
- ・第2期地域公共交通網形成計画策定に必要な調査ができた。

調査事業の結果の概要

- ・各種アンケートを実施し、市民等が望む移動サービス等を把握した。
- ・地域公共交通に係る現状と課題を整理し、市民協働による利便性が高く持続可能な地域公共交通体系の維持・充実に向けた取組方針を設定した。
- ・課題に対応するために取組む事業を設定した。

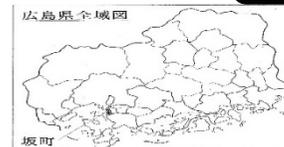


地域公共交通網形成計画等の計画策定に向けた方針等

- ・地域公共交通を継続運行するとともに、路線バス及び地域コミュニティ交通は見直し基準に基づき評価・検証を行い、交通モードの役割の適正化を図る。
- ・地域主体によるコミュニティ交通の導入方法や流れ等を示した「三原市地域コミュニティ交通導入の手引き」を活用し、新たな地区への地域コミュニティ交通の導入を支援する。
- ・「三原市立地適正化計画」で位置付けた「都市生活拠点」「地域生活拠点」相互の連絡や「生活拠点」と周辺地区の連絡の維持や充実に図る。
- ・新たに交通事業者の乗務員不足、増加する自然災害、新たな関連技術などを課題抽出し、課題に対応するため具体的な事業に取組む。



令和元年度 地域公共交通確保維持改善事業 事業評価 坂町地域公共交通会議 地域公共交通調査事業(計画策定事業)の概要



坂町の概要

- 人口 12,747人(平成27年国勢調査)
- 面積 15.69km²

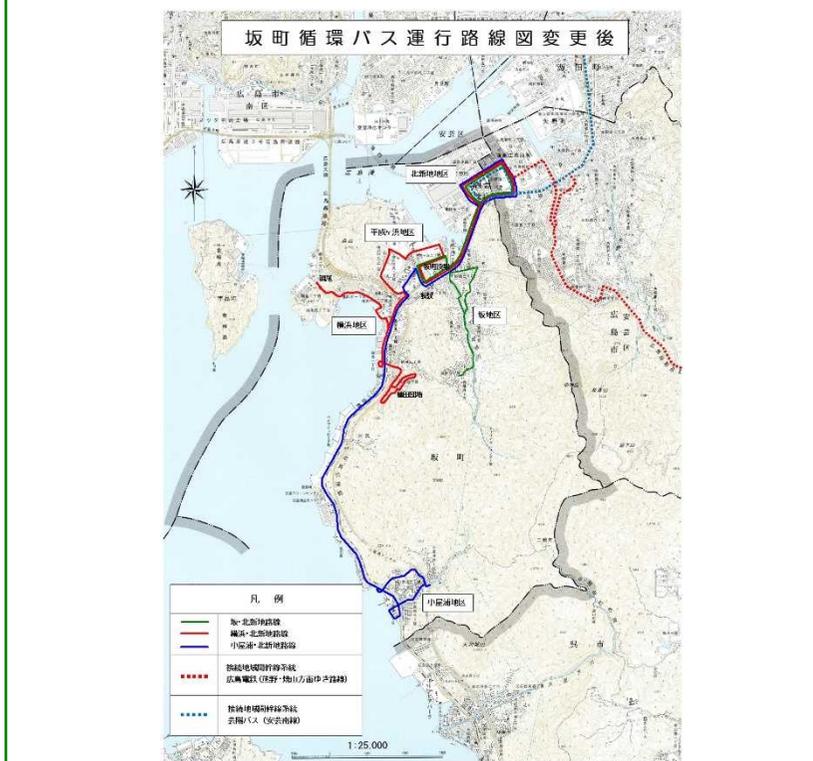
坂町地域公共交通会議の構成員

広島県 坂町 広島電鉄(株) (株)矢野カープタクシー 学識経験者
坂町住民福祉連絡協議会 坂町交通安全協会 中国運輸局広島運輸支局
広島安芸商工会坂支所 私鉄中国地方労働組合広島電鉄支部 海田警察署

地域公共交通の現状

- 鉄道: JR呉線
- バス路線: (自家用有償旅客運送)坂町循環バス
(接続地域間幹線系統)広島電鉄(熊野・焼山方面ゆき路線)、
芸陽バス(安芸南線)
- 高齢化率29.1%(H27国勢調査)

地域公共交通の現況



具体的な課題・問題点

- 高齢化への対応
- 坂町循環バス利用者の減少
- 坂町循環バス事業の赤字運営
- 予備車両確保
- 持続可能な公共交通を確保

調査事業の実施

調査事業の概要

- 現況調査(人口、高齢化、地形)
- 町民アンケート(町内全域無作為抽出)
- バス利用者アンケート(民間路線バス、坂町循環バス)
- 既存計画の実施状況、評価、検証
- 坂町第2次地域公共交通網形成計画の作成

協議会における検討

協議会の開催状況

3回開催（他2回書面会議実施）

- ・第1回（6月14日）
計画策定の目的、工程確認
- ・第2回（11月22日）
アンケート結果と今後の課題、評価
- ・第3回（●月●日）
第2次地域公共交通網形成計画（案）

地域住民の意見の反映

- ・アンケート調査実施の前後に、地域の代表者を含む坂町循環バス検討委員会を開催し、地域の要望を把握。
- ・本年度9月に町内在住者を対象にアンケート調査を実施し、2,500人中1,192人の回答を集計（回収率47.7%）。

事業実施の適切性

- 事業が計画どおり適切に実施された。
- ・坂町第2次地域公共交通網形成計画策定に必要な調査ができた。

調査事業の結果の概要

- ・坂町循環バス利用者数の推移を調査し、減少傾向であることを把握した。地域住民に対しバス利用を促す施策を検討。
- ・事業実施に係る収支の推移を整理し、赤字運営でも継続実施するための施策を検討
- ・住民、利用者アンケートを実施した結果、バスの待合環境の改善や分かりやすい地域公共交通網への改善要望を把握した。乗り継ぎや待機時間の短縮を検討することや、地域に特化した時刻表の作成等の対応施策を検討。



地域公共交通網形成計画等の計画策定に向けた方針等

- ・公共交通に関するアンケート調査の結果、現状大きな課題はないが、坂町循環バス事業の財政状況は毎年度赤字運営となっている。本調査事業の結果、地域の循環バスに関する継続運行の要望が多いことから、財政状況が悪い中でも、主に交通弱者の移動手段の確保のため、地域全体をカバーした面的な公共交通ネットワークを維持継続する必要がある。
- ・便利で分かりやすく持続する地域公共交通を目指す将来像とし、①将来のまちづくりを支える地域公共交通網の強化、②ニーズに応じた見直しと利用促進による利用者の維持・確保、③利用者の快適性の向上、④わかりやすい地域公共交通網への改善、⑤公共交通に関する住民の認知と意識の向上に着目し、年度内に協議会での検討を経て、具体的施策や評価指標等を設定し、計画をとりまとめる。
- ・また、パブリックコメントを実施し、得られた意見及び修正を反映させ、地域住民のニーズに対応した計画とする。



令和元年度 地域公共交通確保維持改善事業 事業評価 海田町地域公共交通実態調査業務/網形成計画策定業務の概要

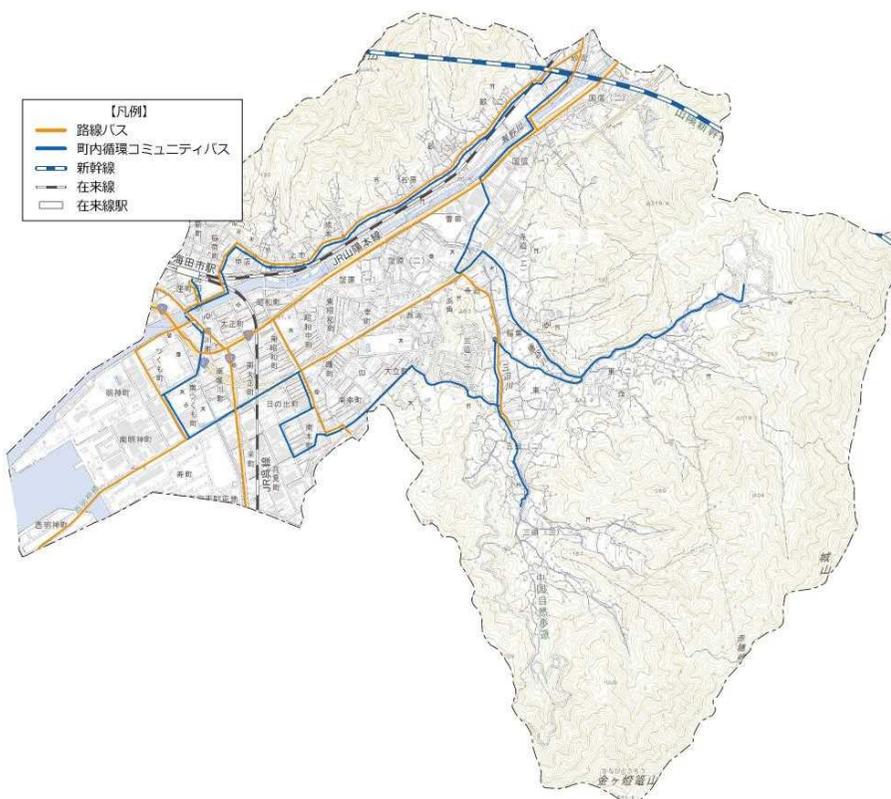
海田町の概要

人口 28,667人(平成27年国勢調査)
面積 13.8平方キロメートル

海田町地域公共交通会議の構成員

広島県 海田町 芸陽バス(株) (株)日興グループ 西日本旅客鉄道(株)
学識経験者 海田警察署 NPO法人なかよし実習所 海田町自治会連合会
海田町社会福祉協議会 中国運輸局 私鉄総連芸陽バス支部

地域公共交通の現況



地域公共交通の現状

- ・鉄道:JR山陽本線、JR呉線
- ・バス路線:広島電鉄バス、芸陽バス、町内循環コミュニティバス 14系統
- ・タクシー:(株)日交タクシー
- ・介護タクシー:NPO法人道しるべ、介護タクシーかりかわ
- ・高齢化率:22.9%(平成27年国勢調査)

具体的な課題・問題点

- ・人口減少社会の到来と高齢社会の進展への対応
- ・交通弱者も安心して暮らせる移手段の確保
- ・町内循環コミュニティバスの運行にかかる町の負担額の軽減
- ・JR海田市駅周辺の都市機能の集積やターミナル機能の強化
- ・海田町役場の庁舎移転に伴う公共交通によるアクセス確保

調査事業の実施

調査事業の概要

- ・地域概況の現状調査(地勢、人口、高齢化、都市構造、自動車交通)
- ・地域公共交通の現状調査(鉄道、路線バス、町内循環コミュニティバス、タクシー、その他の移動支援)
- ・アンケート(住民、町内循環コミュニティバス利用者)
- ・ワークショップ(住民)
- ・利用実態調査(路線バス、町内循環コミュニティバス)
- ・ヒアリング調査(交通事業者)
- ・地域公共交通の課題と改善方向性の検討

交通会議における検討

- ※網形成計画策定に関わる交通会議のみ記載【交通会議の開催状況:3回開催】
- 平成30年度第2回(H31年1月29日) 地域公共交通の見直し検討
- 令和元年度第1回(R元年6月24日) 調査及び改善方向性について
- 令和元年度第2回(R2年1月24日) 予定 網形成計画(素案)について

地域住民の意見の反映

- 平成31年2月に町内住民2,500人を対象にアンケート調査を実施し、1,103人の回答を集計(回収率44.1%)
- 平成31年2月に町内循環コミュニティバス利用者を対象にアンケート調査を実施し、108人の回答を集計(回収率54.5%)
- 令和元年8月に住民ワークショップ(参加者65人)を海田公民館、福祉センター、町民センターで実施し、公共交通に対する意識や要望を把握。

事業実施の適切性

- 事業が計画通り適切に実施。
- 地域公共交通網形成計画策定に必要な調査を実施。

調査事業の結果の概要

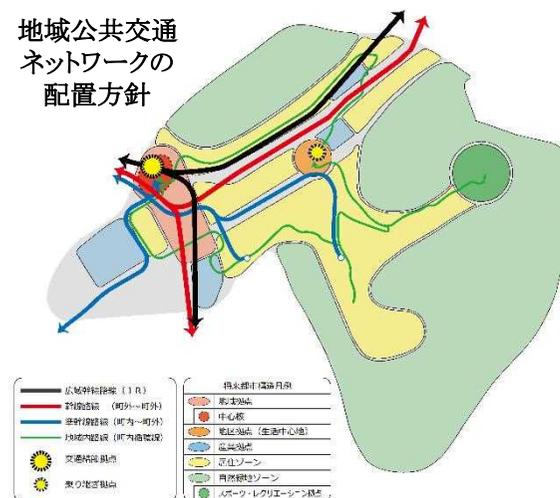
- ・上位関連計画、地域概況や地域公共交通のサービス状況など、海田町地域公共交通を取り巻く現状を把握。
- ・住民アンケート調査や利用実態調査を実施し、日常生活での移動実態等から、自動車への依存傾向が高く、路線バスと町内循環コミュニティバスの利用率が低い状況を把握。
- ・高齢化率の進展、免許の自主返納への対応のためにも、地域公共交通の利用率は低いものの必要性は高いとの認識があることを把握。
- ・住民アンケート調査や住民ワークショップから、町内循環コミュニティバスの利用者ニーズや問題点、改善要望を把握し、運行見直し案を検討中。



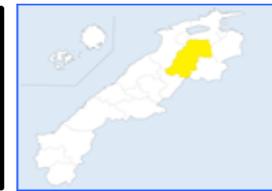
地域公共交通網形成計画等の計画策定に向けた方針等

- 基本方針1:誰もが安心・安全に利用しやすい地域公共交通にする**
暮らしやすく活力のあるまちづくりを進めるため、地域住民や来訪者の移動ニーズに、誰もがわかりやすく、使いやすい地域公共交通づくりを推進する。
- 基本方針2:将来のまちづくりを支える地域公共交通をつくる**
町内全域から地域拠点へのアクセス性を確保するなど、町が目指す『住みよさと活力・魅力を持続的に高める』都市の均衡ある発展に貢献する地域公共交通づくりを推進する。
- 基本方針3:地域とともに地域公共交通を支え・守り・育てる**
持続可能な地域公共交通づくりを目指し、町民や地域関係者、交通事業者、行政の連携・協働により、地域にとって望ましい地域公共交通を支え・守り・育てる。

地域公共交通ネットワークの配置方針



令和元年度 地域公共交通確保維持改善事業 事業評価 雲南市地域公共交通協議会（計画策定事業）の概要



別添4

雲南市の概要

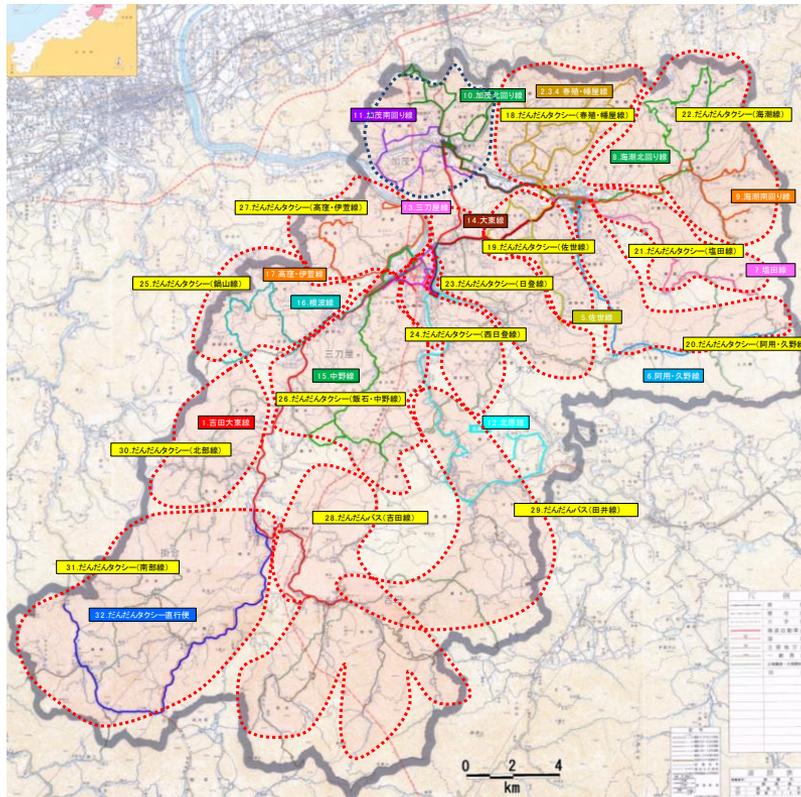
- ・平成16年11月に5町1村が合併
- ・人口 39,032人(平成27年度国勢調査)
- ・面積 553.18km²

協議会の構成員

雲南市、島根県、島根運輸支局、旅客自動車協会、一畑バス(株)、中国JRバス(株)、JR西日本、交通運輸産業労働組合、社会福祉協議会、中国地方整備局、市教育委員会、地域代表、利用者代表、学識経験者

地域公共交通の現況

雲南市民バス路線図(市民バス、デマンド)



地域公共交通の現状

- ・鉄道:JR木次線・4条バス路線:路線バス3路線、高速バス2路線
- ・自家用有償旅客運送(市内全域):市民バス16路線
- ・乗合タクシー(バス):15路線
- ・福祉移送サービス:3事業者(大東地域・掛合地域、雲南市全域)
- ・高齢化率●%

具体的な課題・問題点

- ・過疎化、高齢化への対応
- ・生活交通維持確保に係る行政負担の抑制
- ・中心地と拠点を結ぶ移動手段の確保
- ・市民ニーズに即した多様な利用促進
- ・バス停、車両など公共交通の利用環境の改善・整備



調査事業の実施

調査事業の概要

- ・概況調査(市勢、上位・関連計画方向性。交通計画進捗達成状況)
- ・市民アンケート(市内全地域対象)
- ・乗降調査
- ・ヒアリング調査(学校・商業施設・医療施設、交通事業者、市庁内部局)
- ・公共交通網形成計画の作成

協議会における検討

- 協議会の開催状況 4回開催
- ・第1回(6月26日)
計画策定の進め方の確認
 - ・第2回(10月30日)
調査結果報告、策定協議
 - ・第3回(12月23日)
計画原案協議
 - ・第4回(1月14日)
事業評価について

地域住民の意見の反映

- ・本年度7月に市民アンケート1, 208人の回答を集計(回収率40.3%)。
- ・市内3つの高騰学校、3つの医療機関、8つの商業施設に対し、市民バスの運行について、要望等ヒアリングを行った。

事業実施の適切性

- 事業が計画どおり適切に実施された。
- ・地域公共交通網形成計画策定に必要な調査ができた。

調査事業の結果の概要

- ・地域の概要(位置・地勢、人口、主要施設の分布)を調査し、今後の地域公共交通需要がある地域を把握した。
- ・公共交通の現状を調査し、課題を整理した。
- ・住民、利用者アンケートを実施し、移動ニーズを把握し、改善の方向性を検討した。
- ・地域の課題を整理し、効率よく経済的な運行形態の導入を検討した。



地域公共交通網形成計画等の計画策定に向けた方針等

バス路線等の役割と施設の役割を整理し、総合計画を踏まえた将来像を設定し、その実現のため、以下の方針により事業を展開する。

- ・公共交通の利便性向上
- ・公共交通の効率的な路線再編
- ・公共交通の利用促進
- ・安定的な運行体制の確立

雲南市地域公共交通網形成計画に示す将来像

第2次
雲南市総合計画

雲南市都市計画
マスタープラン

《将来像》

公共交通ネットワークの連携強化・充実による持続可能な移動環境づくりにチャレンジするまち

令和元年度 地域公共交通確保維持改善事業 事業評価 吉賀町公共交通活性化協議会（計画策定事業）の概要



別添4

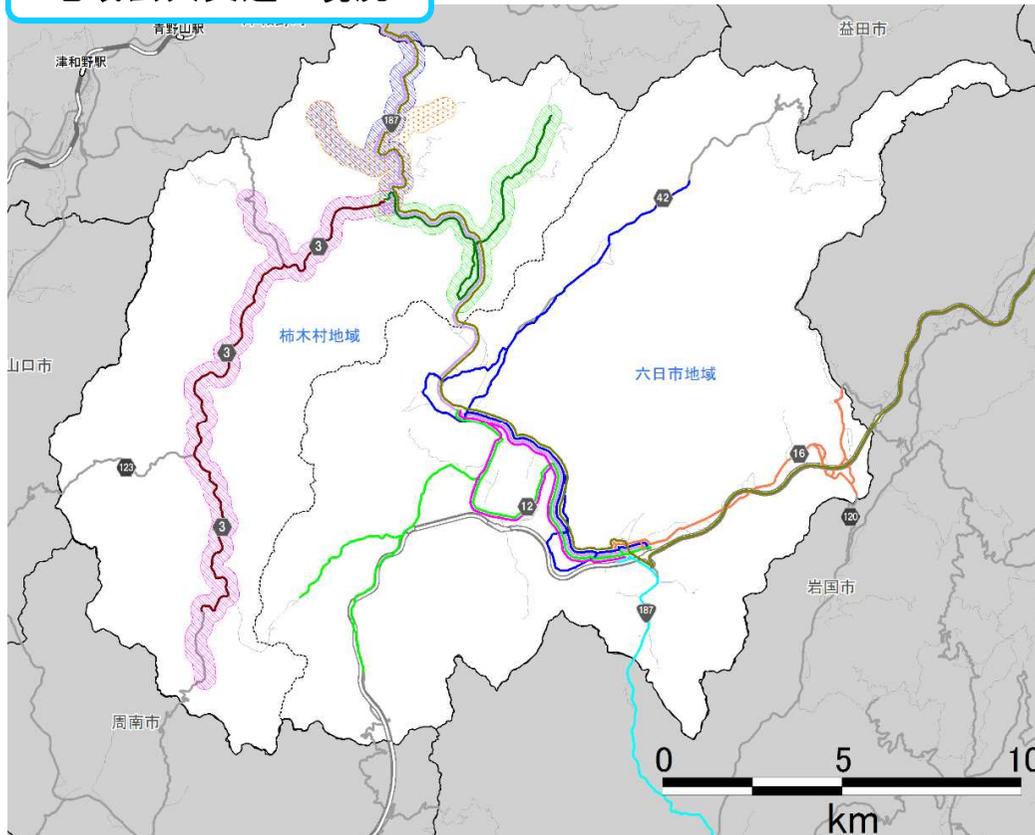
吉賀町の概要

- 平成17年10月1日に1町1村（六日市町、柿木村）が合併
- 人口 6,374人（平成27年国勢調査人口）
- 面積 365.5平方キロメートル
- 高齢化率 43.4%

吉賀町地域公共交通活性化協議会の構成員

吉賀町、公共交通事業者、道路管理者、公安委員会、
地域公共交通の利用者、医療又は福祉に関する団体、
その他町長が必要と認める者（中国運輸局、島根県等）

地域公共交通の現況



広域路線バス

- 広益線(高速バス)
- 広域線
- 六日市線

町内完結路線バス

- 蔵木線
- 蓼野線
- 高尻線
- 六七線
- 吉賀町スクールバス(栴谷線)
- 吉賀町スクールバス(木部谷大野原線)

デマンド型乗合タクシー

- 栴谷線
- 大野原木部谷線
- 大井谷杉山下須線
- 大井谷杉山循環線

具体的な課題・問題点

- 既存資源を活かした効果的・効率的な地域公共交通網の再構築
- 地域間格差の解消に向けた運行形態の見直し
- 交通結節点の明確化と待合環境の改善
- タクシー事業の存続に向けた取組
- 住民と来訪者にとって分かりやすく使いやすい環境整備
- 関係者の連携・協働による利用促進等の取組強化



調査事業の概要

- 住民ワークショップの開催
- 吉賀町地域公共交通網形成計画のとりまとめと策定
- 協議会の開催

協議会における検討

協議会の開催状況… 4回開催

- 第1回（平成30年10月31日）
 - ① 地域公共交通網形成計画について
 - ② 地域概況と公共交通の現状について
 - ③ 各種調査の実施方針について
 - ④ 住民アンケート調査結果について
- 第2回（平成31年3月31日）
 - ① 調査結果を踏まえた問題点と課題について
- 第3回（令和元年9月2日）
 - ① 吉賀町地域公共交通網形成計画(案)について
- 第4回（令和元年11月18日）
 - ① 吉賀町地域公共交通網形成計画(案)について
 - ② タクシー助成事業の実証実験について

地域住民の意見の反映

- 住民ワークショップを実施し、地域にふさわしい移動手段や公共交通を維持する手法等、今後の公共交通のあり方について意見交換を行った（公民館単位5地区で開催）。
- 吉賀町地域公共交通網形成計画(案)について、パブリックコメントを実施（意見提出件数：2件）。

事業実施の適切性

地域公共交通網形成計画策定に必要な調査等が予定どおり適切に実施された。

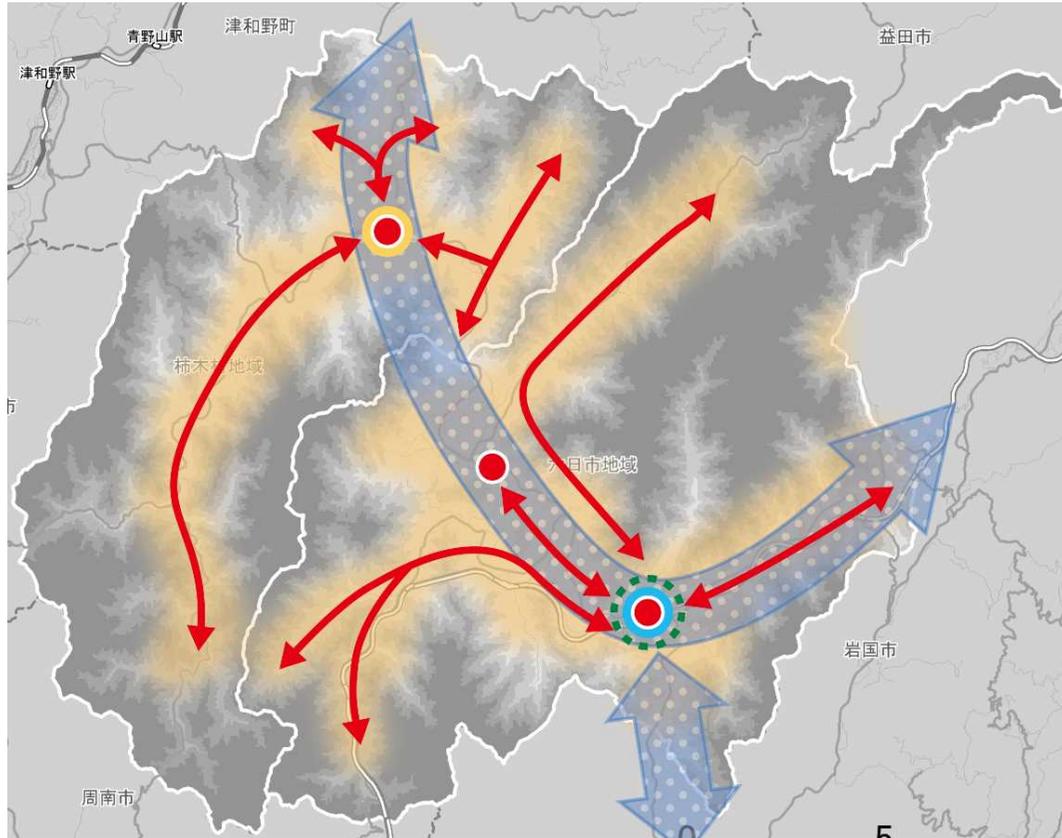
調査事業の結果の概要

- 住民ワークショップにおいて、公共交通の現況や課題を共有し、今後の地域公共交通のあり方について意見交換することにより、計画の実施事業に反映することができた。
- 本町が目指すまちづくりに沿う持続可能な公共交通網の構築に向けた方針・事業について検討した。
- 協議会の承認を受け、吉賀町地域公共交通網形成計画を策定した。

地域公共交通網形成計画等の計画策定に向けた方針等

基本方針	計画の目標	評価指標	事業
公 持 便 共 続 利 交 通 可 網 能 な	1 地域の実情に応じた持続可能な公共交通サービスの提供	公共交通利用者数 現状値 323百人 ▼ 目標値 323百人	①地域内交通（デマンド運行）の見直し
			②タクシー助成制度の導入検討
			③地域内交通（定期運行）の見直し
			④広域交通の見直し
			⑤スクールバスの見直し
			⑥市街地循環線（仮称）の導入検討
利 使 分 誰 用 使 かり 環 や や 境 す や い す く	2 公共交通環境の改善と充実	地域内交通(定期運行、デマンド運行)の総合的な満足度について「満足」「やや満足」と回答した人の割合 現状値 18.9% ▼ 目標値 25%	⑦乗継拠点の整備、停留所の改善
			⑧車両のバリアフリー化の推進
			⑨公共交通ガイドの作成と定期的な情報提供
			⑩車両の装飾と愛称の設定
			⑪観光客への情報提供
			連 者 取 公 携 間 の 共 ・ の 交 協 にお 通 働 ける 関 係 する
⑬運転免許自主返納者等への支援			
⑭公共交通による貨物輸送（貨客混載）の実施			
⑮運転手確保に向けた支援の実施			
⑯公共交通について検討するための庁内プロジェクト会議の設置			

公共交通の将来像



分類		役割
広域交通		行政区域を超えた広域的な移動手段、拠点間の移動手段
地域内交通	定期運行	朝夕の通勤・通学と買物・通院等の移動手段
	デマンド運行	日中の買物・通院等の移動手段
	その他	町中心部の公共施設、医療機関、商業施設間の周遊性を向上させる公共交通、きめ細やかなニーズに対応する移動手段

令和元年度 地域公共交通調査等事業 事業評価 岡山市(計画策定事業)の概要



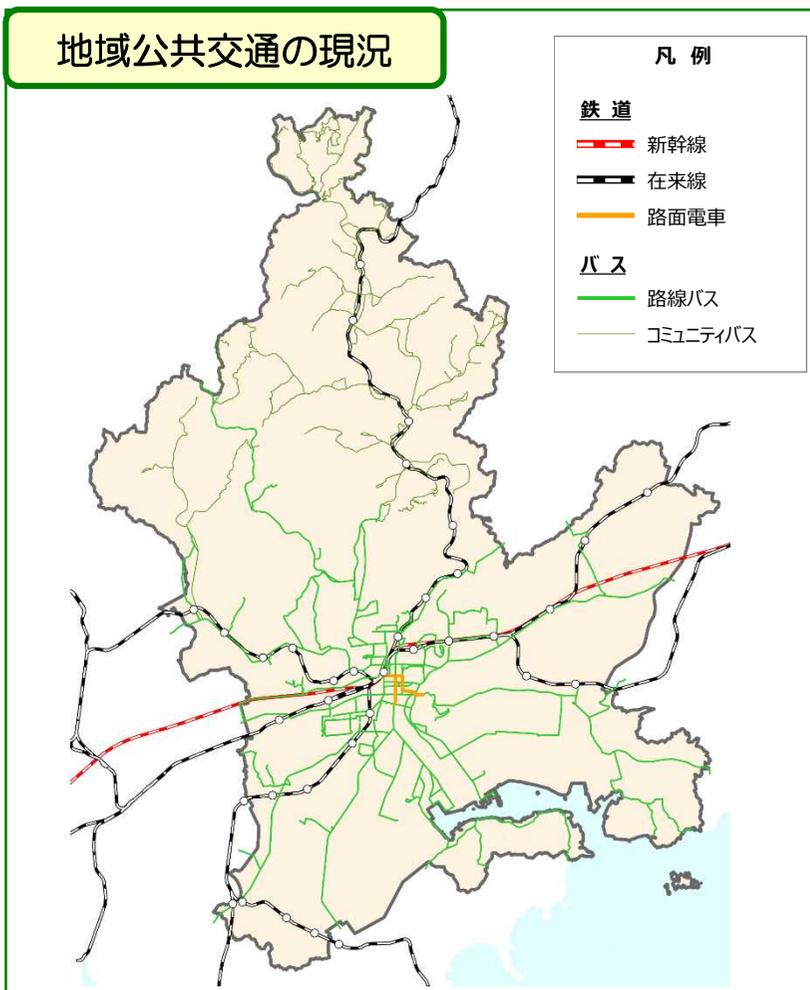
岡山市の概要

- 平成21年に政令指定都市に移行
- 人口 72万人(平成27年10月現在)
- 面積 790平方キロメートル

公共交通網形成協議会の構成員

学識経験者 連合町内会 婦人会 障害者団体連合会 商工会議所
観光コンベンション協会 JR西日本 岡山電気軌道 両備HD 東備バス
中鉄バス 中鉄北部バス 備北バス 宇野自動車 下津井電鉄 八晃運輸
岡山県タクシー協会 中国運輸局 岡山県警察署

地域公共交通の現況



地域公共交通の現状

- ・鉄道：6路線（JR西日本）
- ・路面電車：2路線（岡山電気軌道）
- ・4条バス路線：215系統（うちコミバス17系統）
- ・乗合タクシー：3地域
- ・空白地有償旅客運送（1地域）
- ・高齢化率25%

具体的な課題・問題点

- ・路線バスの利用低迷
- ・路線バスの減便・廃止
- ・9社のバス事業者による過当競争（路線重複、運賃低廉化）
- ・周辺部から都心までの高いバス運賃
- ・複雑な路線網、利用できるサービスの事業者間での相違

調査事業の実施

調査事業の概要

- ・公共交通利用実態の現況分析（利用特性と収支状況）
- ・目標の実現に向けた施策の検討（バス路線再編、運賃施策、利用環境の整備など）
- ・地域公共交通網形成計画の作成（協議会の開催、計画のとりまとめ）

協議会における検討

- 協議会の開催状況 R元年度5回開催
- ・第3回協議会(4/11)路線再編2方面協議
 - ・第3回幹事会(5/30)路線再編2方面協議
 - ・第4回幹事会(7/29)路線再編2方面協議
 - ・第4回協議会(8/19)路線再編6方面協議
 - ・第5回協議会(11/26)計画案協議

地域住民の意見の反映

- ・協議会において、市民代表や経済界から利用者目線に立った様々な意見があり、施策の検討や進め方など、計画案を作成する際の参考とした。

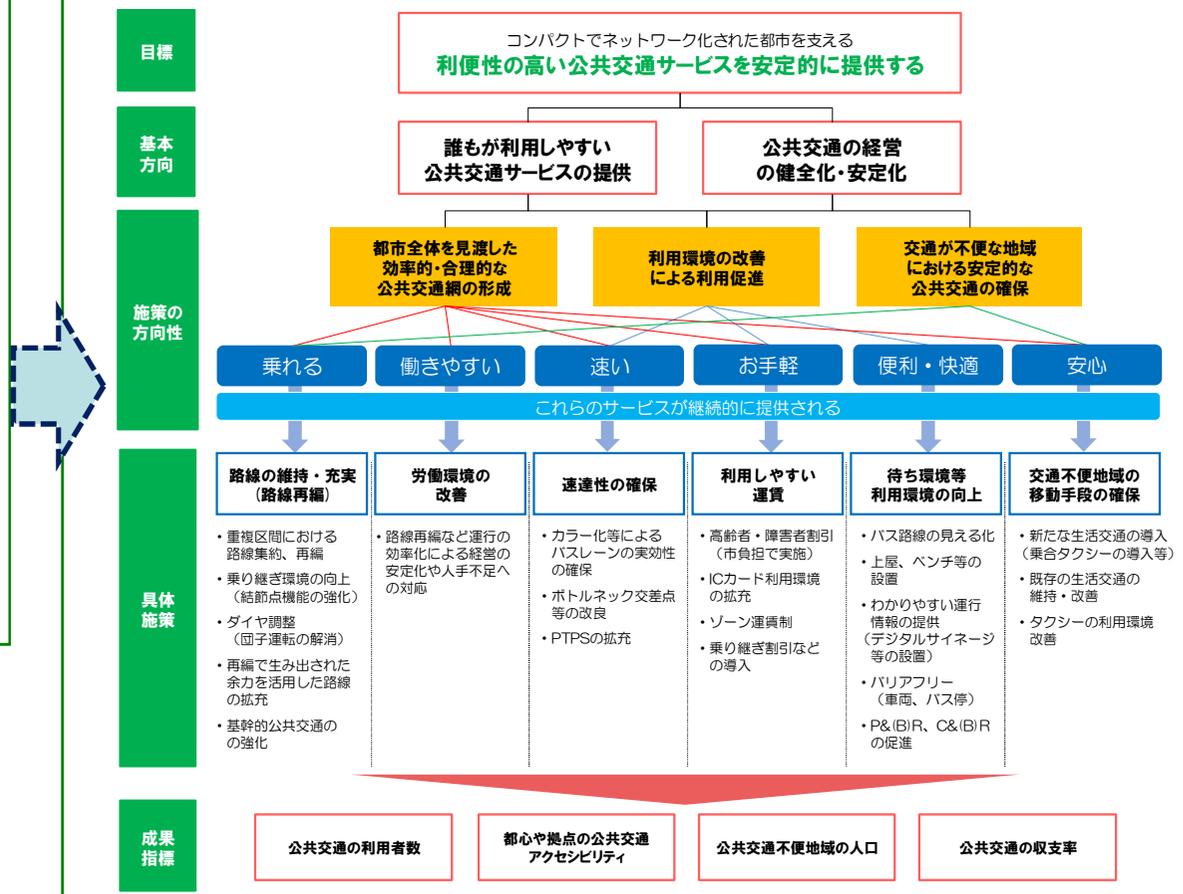
事業実施の適切性

- 事業が計画どおり適切に実施された。
- 調査結果に基づく課題整理や施策等の提案に対して、協議会を重ねるごとに交通事業者との活発な協議ができるようになり、地域公共交通網形成計画策定に必要な調査ができた。

調査事業の結果の概要

- 輸送実績から路線バスの全体及び路線ごとの収支率を調査し、持続可能な公共交通ネットワークの構築に向けて、路線再編や運賃施策などの「利便性の向上」と「公共交通の経営の安定化」に向けた取り組みの方向性について整理した。
- 路線再編（幹線＋支線化、鉄道駅への路線バス接続）に伴う乗り継ぎ拠点の在り方について、事業者等と協議し、方向性を打ち出した。
- 高齢者・障害者を対象とした割引を実施することで利用促進と収支改善の双方に効果があることを定量的に把握し、施策に位置付けた。
- 今後は、都心や拠点までの公共交通アクセシビリティ（30分圏人口、交通不便者数）について、路線再編による効果を定量的に把握する予定。

地域公共交通網形成計画等の計画策定に向けた方針等





令和元年度 地域公共交通確保維持改善事業 事業評価 備前市公共交通会議（計画策定事業）の概要

備前市の概要

- 平成17年3月に1市2町が合併
- 人口 3万5千人（平成27年 国勢調査時点）
- 高齢化率 36.3%（65歳以上）
- 面積 258平方キロメートル

備前市公共交通会議の構成員

備前市、岡山県、西日本旅客鉄道(株)、岡山県タクシー協会和気支部、宇野自動車(株)、(株)インバタクシー、大生汽船(株)、瀬戸内観光汽船(株)、学識経験者、中国運輸局、備前警察署、瀬戸内市、和気町、住民代表

地域公共交通の現況



地域公共交通の現状

- 鉄道：JR山陽本線、JR赤穂線
- 航路：日生～大多府航路、日生～大部航路
- 4条バス路線：宇野バス（1路線）
- 自家所有有償旅客運送：備前市営バス（11路線）
東備西播定住自立圏圏域バス（1路線）、瀬戸内市営バス（1路線）
- 交通空白地域有償運送：笹目地区（旧吉永町）

具体的な課題・問題点

- 過疎化、高齢化への対応
- 公共交通利用者の減少
- 公共交通維持確保に係る行政負担の増加
- 中心市街地の活性化、賑わいの創出
- バス停、車両など公共交通の利用環境の改善・整備

調査事業の実施

調査事業の概要

- | | |
|---|---|
| <p>令和元年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 現況調査（人口、高齢化、地勢等） ● 市民アンケート（全市約3千世帯） ● 上位関連計画の整理 ● 市営バス利用状況の分析 | <p>令和元年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ヒアリング調査（学校、商工関連団体、医療施設、市関係各課） ● 住民へのヒアリング（意見交換） ● 課題の整理及び計画の基本方針、目標の検討 ● 地域公共交通網形成計画の作成 |
|---|---|

協議会における検討

協議会の開催状況

- ・第1回（5月9日）
市における公共交通の問題点と課題
- ・分科会（7月25日）
調査の進め方と地域別課題について

地域住民の意見の反映

- ・公共交通の課題を整理し、地域住民を対象とした住民交換会を通じて、更なる課題の把握や課題解決に向けた意見・アイデア等の聞き取りを行った。

事業実施の適切性

- 事業が計画どおり適切に実施された。
- ・地域公共交通網形成計画策定に必要な調査・検討ができた。

調査事業の結果の概要

- ・平成30年度調査事業（アンケート調査等）で把握した、公共交通の課題を再度地域（エリア）ごとに整理し、公共交通会議および分科会を通じて意見交換を行った。
- ・医療機関、学校、商業関連団体、市関係各課を対象にヒアリング調査を実施し、運転免許証を持たない高齢者や高校生の詳細な移動実態や今後の公共交通に関連する施策等を把握した。
- ・昨年度実施したアンケート調査等から、地域ごとの課題を整理し、地域住民と意見交換を行った。※本年度12月～1月にかけて実施
- ・地域住民との意見交換結果を踏まえ、市全体の公共交通ネットワークのあり方を示した地域公共交通網形成計画を策定する。



地域公共交通網形成計画等の計画策定に向けた方針等

次の公共交通の課題への対応方針を地域との意見交換結果を基に検討し、公共交通網形成計画を策定する。

住民や観光客の需要に対応した効率的な公共交通体系への見直し

- 住民のニーズの変化や観光客のニーズへ対応するため、現在の市営バス路線見直しに向けた検討が必要
- 非効率的なバス路線の存在や将来の人口減少等を踏まえて、需要に合った効率的な公共交通体系を構築

計画のモニタリングにおける仕組みづくり

- 持続可能な公共交通に向け、市内の公共交通体系の変化に対応した評価・検証の仕組みづくりが必要
- 市として最低限確保するサービス水準の設定等を検討

役割分担の明確化や住民参画による持続可能な移動手手段の確保

- 公共交通と競合することがないよう役割分担を明確化
- 多様な選択肢から地域の特性に応じた移動手手段を検討

公共交通の利便性向上と利用環境の整備

- 経路検索アプリへの対応や交通系ICカードへの対応、路線図や時刻表、情報提供等の検討が必要

公共交通を積極的に利用する意識の醸成と利用促進

- 地域住民が「地域の公共交通（移動手手段）を守る」ための意識を持ってもらうための働きかけが必要



柳井市

令和元年度 地域公共交通確保維持改善事業 事業評価 柳井市地域公共交通網形成計画策定調査事業（計画策定事業）の 概要

柳井市の概要

- ・平成17年2月に1市1町が合併
- ・人口 3.3万人（平成27年10月現在）
- ・面積 140.05平方キロメートル

柳井市地域公共交通会議の構成員

山口県 柳井市 防長交通(株) 防長交通(株)労働組合
 柳井地区タクシー協会 JR西日本(株) 平郡航路(有) 学識経験者
 地区社会福祉協議会 市民代表 山口運輸支局
 山口河川国道事務所 柳井警察署

地域公共交通の現況



地域公共交通の現状

- ・鉄道：JR山陽本線
- ・航路：平郡航路、防予フェリー
- ・4条バス路線：防長交通 16系統
- ・みなし4条バス路線：防長交通 18系統
- ・乗合タクシー：日積地区社会福祉協議会（運行事業者 柳井三和交通(株)）
- ・高齢化率36.6%

具体的な課題・問題点

- ・高齢化、人口減少への対応
- ・路線バス、離島航路に係る行政負担の増加
- ・実態に即した地域公共交通の構築

調査事業の実施

調査事業の概要

- ・既存資料や交通事業者のデータによる問題点・課題の整理
- ・市民や高校生等へのアンケート調査、ヒアリング調査、利用実態調査の実施
- ・関係者へのヒアリング調査の実施（交通事業者、庁内各課）
- ・住民意見交換会の開催
- ・計画のとりまとめ
- ・地域公共交通会議の開催

協議会における検討

- 協議会の開催状況 4回開催
- ・ 第1回（6月6日）調査の進め方の確認
 - ・ 第2回（10月25日）骨子案の確認
 - ・ 第3回（12月20日）素案の確認
 - ・ 第4回（3月開催予定）案の確認

地域住民の意見の反映

- ・ 柳井市の公共交通について、意見交換会を行った。
- ・ 本年度8月に市内1,000世帯を対象にアンケート調査を実施し、457世帯の回答を集計（回収率45.7%）。
- ・ 本年度9月に平郡地区216世帯を対象に実施、135世帯の回答を集計（回答率62.5%）。
- ・ 「ひづみふれあい号」アンケートを572世帯を対象に実施し、495世帯の回答を集計（回収率86.5%）。

事業実施の適切性

- 事業が計画どおり適切に実施された。
- ・ 地域公共交通網形成計画策定に必要な調査ができた。

調査事業の結果の概要

- ・ 既存資料や交通事業者のデータによる問題点・課題の整理
- ・ 市民や高校生等へのアンケート調査・ヒアリング調査・利用実態調査の実施による、利用実態及びニーズの整理
- ・ 関係者へのヒアリング調査の実施、住民意見交換会を開催による意向の把握
- ・ 以上の結果をもとに、持続可能な公共交通網の形成にあたっての問題点や課題を整理し、これまでに策定された上位計画や関連計画を踏まえつつ、地域にとって望ましい公共交通網のあり方についての基本方針をまとめた。また、基本方針に沿って、持続可能な公共交通網の形成に向けた目標、事業の実施主体、スケジュール等を具体的に反映させた計画素案を作成した。
- ・ 今後の地域公共交通会議の検討及び計画に対する意見交換会を経て、計画をとりまとめる。



地域公共交通網形成計画等の計画策定に向けた方針等

将来像を「幸せな暮らしを支え続ける地域公共交通網の形成」とし、次の3つの基本方針を掲げ、令和2年度以降必要な事業を実施する。

- ・ 市民だけでなく来訪者にもわかりやすく、使いたいと感じる公共交通網の形成
- ・ 公共交通への市民の理解や関心を高める取り組みの推進
- ・ 市民・事業者・行政・その他関係者がともに担い手の意識を持った移動手段の確保・維持

また、次の3つの事業を重点的に実施し、地域内のネットワークを強化できるようなルート、ダイヤを設定することとする。

- ・ 都市間幹線の確保・維持
- ・ 利用者が少なく、路線周辺に空白地が多いバス路線の代替交通への転換
- ・ 既存バス路線の経路再編及び市街地を循環する公共交通の導入の検討

